

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-198667

(43)Date of publication of application : 31.07.1998

(51)Int.Cl.

G06F 17/22

G06F 17/30

(21)Application number : 08-358428

(71)Applicant : CASIO COMPUT CO LTD

(22)Date of filing : 28.12.1996

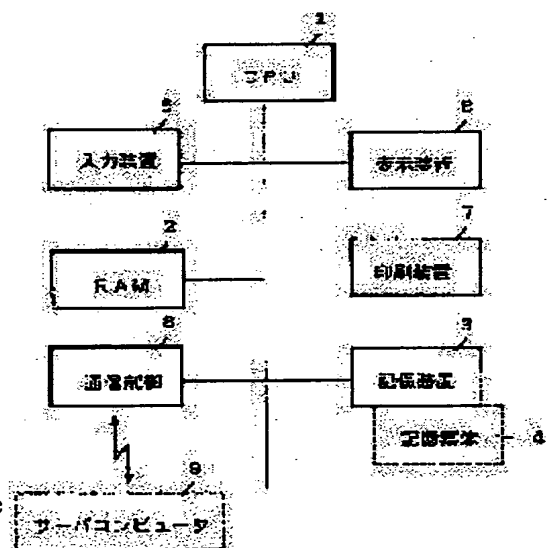
(72)Inventor : O TAKESHI

## (54) CHARACTER STRING CONVERSION DEVICE AND PROGRAM RECORDING MEDIUM FOR THE DEVICE

### (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To make it possible to easily acquire another character string information related to a candidate character string by accessing a prescribed database based on the candidate character string in normal character string conversion for converting an input character string into its corresponding candidate character string by the use of a conversion dictionary memory.

**SOLUTION:** A CPU 1 converts a KANA (Japanese syllabary) character string inputted from an input device 5 into a KANJI (Chinese character) mixed candidate character string by referring to a conversion dictionary memory built in a RAM 2. When another information indicating the attribute of the candidate character string is inputted and specified as a character string attribute, the CPU 1 retrieves a database corresponding to the character string attribute by using the candidate character string as a keyword, converts the candidate character string into its related character string information and displays the candidate.



### LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

24.12.2002

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-198667

(43) 公開日 平成10年(1998) 7月31日

(51) Int.Cl.

識別記号

F I

G 0 6 F 17/22  
17/30

G 0 6 F 15/20

5 2 0 R

5 1 2 G

5 2 0 G

15/40

3 7 0 J

審査請求 未請求 請求項の数 6 F D (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願平8-358428

(22) 出願日 平成8年(1996)12月28日

(71) 出願人 000001443

カシオ計算機株式会社

東京都渋谷区本町1丁目6番2号

(72) 発明者 王 斌

東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ

計算機株式会社羽村技術センター内

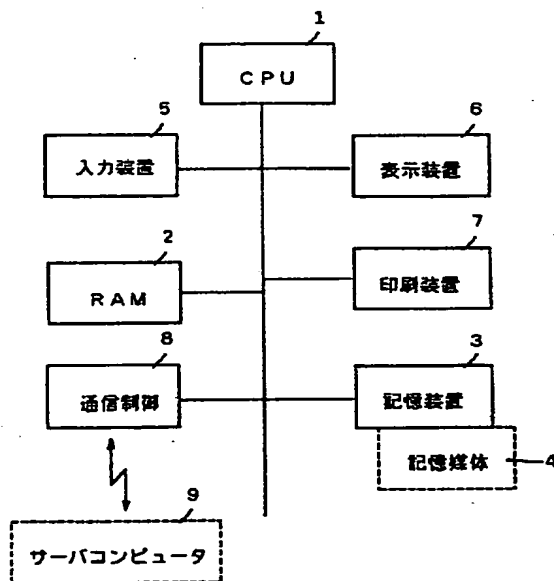
(74) 代理人 弁理士 杉村 次郎

(54) 【発明の名称】 文字列変換装置およびそのプログラム記録媒体

(57) 【要約】

【課題】 入力文字列を変換辞書メモリによりそれに対応する候補文字列に変換する通常の文字列変換時において、この候補文字列に基づいて所定のデータベースをアクセスすることで、この候補文字列に関連する別の文字列情報を容易に取得する。

【解決手段】 CPU1は入力装置5から入力されたかな文字列をRAM2内の変換辞書メモリを参照して漢字混りの候補文字列に変換する。ここで、CPU1は候補文字列の属性を示す別の情報が文字列属性として入力指定されると、候補文字列をキーワードとして、文字列属性に対応するデータベースを検索することにより当該候補文字列をそれに関連する文字列情報に変換して候補表示させる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】入力文字列に基づいて変換辞書メモリを検索することにより入力文字列をそれに対応する候補文字列に変換する第1の変換手段と、

前記入力文字列あるいは候補文字列の属性を示す別の情報を当該文字列に対する文字列属性として入力指定する指定手段と、

この指定手段によって文字列属性が指定されている場合に、前記候補文字列をキーワードとして、当該文字列属性に対応する所定のデータベースを検索することにより当該候補文字列をそれに関連する文字列情報に変換する第2の変換手段と、

この第2の変換手段によって得られた変換結果を候補出力する出力手段とを具備したことを特徴とする文字列変換装置。

【請求項2】前記第2の変換手段は、指定された文字列属性に対応するデータベースを候補文字列をキーワードとして検索する際に、他の装置に備えられているデータベースをリモート・アクセスすることによって検索するようにしたことを特徴とする請求項1記載の文字列変換装置。

【請求項3】入力文字列に基づいて変換辞書メモリを検索することにより入力文字列をそれに対応する候補文字列に変換する第1の変換手段と、

前記候補文字列に予め決められている専門用語が含まれている場合に、当該専門用語を抽出する抽出手段と、次候補変換が指示された際に、前記抽出手段によって抽出された専門用語に対応する専門用語辞書メモリを選択すると共に、選択した専門用語辞書メモリを参照して前記入力文字列を再変換する第2の変換手段と、

この第2の変換手段によって得られた変換結果を候補出力する出力手段とを具備したことを特徴とする文字列変換装置。

【請求項4】前記第2の変換手段は、専門用語辞書メモリを参照して入力文字列を再変換する際に、他の装置に備えられている専門用語辞書メモリの内容をダウン・ロードすることによって再変換するようにしたことを特徴とする請求項3記載の文字列変換装置。

【請求項5】コンピュータに対して、

入力文字列に基づいて変換辞書メモリを検索することにより入力文字列をそれに対応する候補文字列に変換する機能と、

前記入力文字列あるいは候補文字列の属性を示す別の情報を当該文字列に対する文字列属性として入力指定されている場合に、前記候補文字列をキーワードとして、当該文字列属性に対応する所定のデータベースを検索することにより当該候補文字列をそれに関連する文字列情報に変換する機能と、

これによって得られた変換結果を候補出力させる機能を実現させるためのプログラムを記録した記録媒体。

【請求項6】コンピュータに対して、

入力文字列に基づいて変換辞書メモリを検索することにより入力文字列をそれに対応する候補文字列に変換する機能と、

前記候補文字列に予め決められている専門用語が含まれている場合に、当該専門用語を抽出する機能と、

次候補変換が指示された際に、前記抽出手段によって抽出された専門用語に対応する専門用語辞書メモリを選択すると共に、選択した専門用語辞書メモリを参照して前記入力文字列を再変換する機能と、

これによって得られた変換結果を候補出力させる機能を実現させるためのプログラムを記録した記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、入力文字列を変換辞書メモリによりそれに対応する候補文字列に変換する文字列変換装置およびそのプログラム記録媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】一般に、ワードプロセッサやパーソナルコンピュータ等の文書処理装置においては、入力されたかな文字列に基づいてかな漢字変換用の辞書メモリを検索することにより漢字混りの候補文字列に変換して候補表示すると共に、次候補変換が指定された際には、当該辞書メモリを再度検索して次候補を表示するようにしている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、かな漢字変換時に候補文字列として表示されるのは、変換辞書メモリに記述されている内容のみに限られてしまう。この発明の課題は、入力文字列を変換辞書メモリによりそれに対応する候補文字列に変換する通常の文字列変換時において、この候補文字列に基づいて所定のデータベースをアクセスすることで、この候補文字列に関連する別の文字列情報を容易に取得できるようにすることである。一方、入力文字列をかな漢字変換する際に、専門用語については、単漢字変換や単語変換により所望する専門用語に変換したり、予めユーザ登録辞書に専門用語を登録しておき、このユーザ登録辞書により専門用語に変換するようにしているが、このような変換方法ではオペレータに大きな負担をかけるという欠点があった。このような場合、通常のかな漢字変換辞書の他に専門用語辞書を増設しておけばよいが、文書作成時にどのような専門用語が出現するかを事前に把握しておく必要があると共に、専門用語辞書を用いて変換すべきことをその都度指定しなければならず、オペレータに大きな負担をかけると共に変換効率の低下を招くという欠点があった。この発明の課題は、どのような分野の専門用語であっても通常の操作手順にしたがって入力文字列を所望する専門用語に効率良く変換できるようにすることである。

【0004】

【課題を解決するための手段】この発明の手段は次の通りである。請求項1記載の発明は、入力文字列に基づいて変換辞書メモリを検索することにより入力文字列をそれに対応する候補文字列に変換する第1の変換手段と、前記入力文字列あるいは候補文字列の属性を示す別の情報を当該文字列に対する文字列属性として入力指定する指定手段と、この指定手段によって文字列属性が指定されている場合に、前記候補文字列をキーワードとして、当該文字列属性に対応する所定のデータベースを検索することにより当該候補文字列をそれに関連する文字列情報に変換する第2の変換手段と、この第2の変換手段によって得られた変換結果を候補出力する出力手段とを具備するものである。なお、前記第2の変換手段は、指定された文字列属性に対応するデータベースを候補文字列をキーワードとして検索する際に、他の装置に備えられているデータベースをリモート・アクセスすることによって検索するようにしてもよい。請求項1記載の発明によれば、入力文字列あるいは第1の変換手段によって変換された候補文字列の属性を示す別の情報を当該文字列に対する文字列属性として入力指定すると、例えば、当該文字列が人名であれば、その文字列の属性を示す別の情報として「氏名」を入力指定すると、前記候補文字列をキーワードとして第2の変換手段は、当該文字列属性に対応する所定のデータベース（例えば、住所録ファイル）を検索する。これによって候補文字列はそれに関連する文字列情報（例えば、住所録データ等）に変換されて変換候補として出力される。したがって、入力文字列を変換辞書メモリによりそれに対応する候補文字列に変換する通常の変換手段において、この候補文字列に基づいて所定のデータベースをアクセスすることで、この候補文字列に関連する別の文字列情報を容易に取得することができる。

【0005】請求項3記載の発明は、入力文字列に基づいて変換辞書メモリを検索することにより入力文字列をそれに対応する候補文字列に変換する第1の変換手段と、前記候補文字列に予め決められている専門用語が含まれている場合に、当該専門用語を抽出する抽出手段と、次候補変換が指示された際に、前記抽出手段によって抽出された専門用語に対応する専門用語辞書メモリを選択すると共に、選択した専門用語辞書メモリを参照して前記入力文字列を再変換する第2の変換手段と、この第2の変換手段によって得られた変換結果を候補出力する出力手段とを具備するものである。なお、前記第2の変換手段は、専門用語辞書メモリを参照して入力文字列を再変換する際に、他の装置に備えられている専門用語辞書メモリの内容をダウン・ロードすることによって再変換するようにしてもよい。請求項3記載の発明によれば、第1の変換手段によって得られた候補文字列に専門用語が含まれている場合、次候補変換が指定されると、

第2の変換手段によって専門用語に対応する専門用語辞書メモリが検索対象として選択されると共に、この辞書メモリを参照して入力文字列の再変換が行われる。したがって、どのような分野の専門用語であっても通常の操作手順にしたがって入力文字列を所望する専門用語に効率良く変換することができる。

【0006】

【発明の実施の形態】

（第1実施形態）以下、この発明の一実施形態を図1～図6を参照して説明する。図1は文書処理装置の全体構成を示したブロック図である。CPU1はRAM2内にロードされている各種プログラムにしたがってこの文書処理装置の全体動作を制御する中央演算処理装置である。記憶装置3はオペレーティングシステムや各種アプリケーションプログラム、データファイル、文字フォントデータ等が予め格納されている記憶媒体4やその駆動系を有している。この記憶媒体4は固定的に設けたもの、もしくは着脱自在に装着可能なものであり、フロッピーディスク、ハードディスク、光ディスク、RAMカード等の磁気的・光学的記憶媒体、半導体メモリによって構成されている。また、記憶媒体4内のプログラムやデータは、必要に応じてCPU1の制御により、RAM2にロードされる。更に、CPU1は通信回線等を介して他の機器側から送信されて来たプログラム、データを受信して記憶媒体4に格納したり、他の機器側に設けられている記憶媒体に格納されているプログラム、データを通信回線等を介して使用することもできる。また、CPU1にはその入出力周辺デバイスである入力装置5、表示装置6、印刷装置7、通信制御部8がバス接続されており、CPU1はそれらの動作を入出力プログラムにしたがって制御する。また、この文書処理装置には通信制御部8を介してサーバコンピュータ9が接続されており、CPU1はサーバコンピュータ9側に備えられているデータベースをリモート・アクセスすることによってその内容を検索するようにしている。

【0007】入力装置5は文字列データや各種のコマンドを入力するキーボードやマウス等のポインティングデバイスを有し、入力装置5から入力された文字列データはCPU1に取り込まれて表示装置6のテキスト画面に表示される。ここで、キーボード上の変換キーが操作されて、かな漢字変換が指示された際に、CPU1はこの入力文字列をRAM2内のかな漢字変換用の変換辞書メモリ2-1（図2参照）を参照することにより漢字混りの候補文字列に変換してテキスト画面に表示すると共に、RAM2内のテキストメモリ2-2（図2参照）に格納する文書作成処理を行う。また、キーボード上には図示しないが、文字キー、変換キー、次候補キー、実行キー等、通常備えられている各種のキーの他に、かな漢字変換された候補文字列の属性を示す別の情報を当該候補文字列に対する文字列属性として指定する文字列属性

キーが設けられている。すなわち、候補文字列が人名であれば、この候補文字列の属性を示す別の情報として「人名」を入力指定するが、その際、上記文字列属性キーは、この「氏名」が当該候補文字列に対する文字列属性であることを示すためのキーである。この場合、属性別に専用の文字列属性キーをそれぞれ設けてもよいが、文字列属性キーが1つの場合には、予め当該属性キーを操作することにより次に文字入力する情報が文字列属性であることを宣言するようにしても良い。このようにして文字列属性が指定されると、CPU1は候補文字列をキーワードとして当該文字列属性に対応する所定のデータベースを検索することにより、当該候補文字列をそれに関連する文字列情報に変換し、その変換結果を候補表示させる。なお、入力装置5から印刷指令が入力されると、CPU1はRAM2内の文書データを印字イメージに変換して印刷装置7に送り、印字出力させる。また、文書保存が指定されると、RAM2内の文書データを記憶媒体4に登録保存させる。

【0008】図2はRAM2の主要構成を示し、RAM2の内容は必要に応じて記憶媒体4等からのロードされたものである。変換辞書メモリ2-1はかな漢字変換用の辞書メモリで、ユーザ登録辞書等も含まれている。テキストメモリ2-2は文書データをコード形式で記憶する文書メモリである。文字列属性テーブル2-3は図3に示すように文字列属性とデータベース名とを対応付けて記憶するもので、文字列属性として「氏名」が入力指定された際には、それに対応するデータベース名として「住所録管理ファイル」が検索対象として選択される。また文字列属性テーブル2-3には文字列属性「施設」に対応してデータベース名として「リモートデータベース(1)」が記憶されている。ここで、リモートデータベースとしCPU1がリモート・アクセスによって検索するサーバコンピュータ9側のデータベースを示している。データベース(1)2-4……データベース(N)2-5は記憶媒体4からロードされたデータベースを示し、またワークメモリ2-6には各種プログラムや文字フォント等が格納される。

【0009】次に、この文書処理装置における文字列変換動作を図4に示すフローチャートにしたがって説明する。なお、このフローチャートに記述されている各機能を実現するためのプログラムは、CPU1が読み取り可能なプログラムコードの形態で記憶媒体4に記憶されており、その内容がRAM2内のワークメモリにロードされている。まず、かな文字列が入力されて変換が指示されると、CPU1は入力文字列を変換辞書メモリ2-1を参照することによって漢字混りの候補文字列に変換すると共に(ステップA1)、この候補文字列をテキスト画面に表示させる(ステップA2)。ここで、次変換キーが操作されると(ステップA3)、変換辞書メモリ2-1を参照して再変換を行い、次候補を表示させる(ス

テップA1、A2)。いま、図5(A)に示すようにかな文字列「さとう」を入力したのち、変換キーを操作すると、図5(B)に示すようにその変換候補として「佐藤」が表示される。ここで、実行キーの操作により候補の確定が指示されると、変換確定処理(ステップA9)が行われて、変換結果がテキストメモリ2-2に格納されるが、候補文字列の属性を示す別の情報が文字列属性として入力指定された場合にはステップA3でそのことが検出されてステップA4~A9の実行に移る。

【0010】すなわち、図5(B)に示す状態において、「氏名」が文字列属性として指定された場合には、指定文字列属性を一時記憶保持したのち(ステップA4)、指定文字列属性に基づいてRAM2内の文字列属性テーブル2-3をアクセスし、対応するデータベース名を読み出し、このデータベース名に基づいてRAM2内のデータベースあるいはサーバコンピュータ9側のリモートデータベースを検索対象として選択する(ステップA5)。このようにして選択したデータベースあるいはリモートデータベースを候補文字列によって検索し(ステップA6)、この候補文字列に関連する文字列情報をデータベースあるいはリモートデータベースより読み出してテキスト画面上に変換候補として表示出力させる(ステップA7)。

【0011】いま、図5(B)に示すように文字列属性として「氏名」を入力指定した場合には、候補文字列「佐藤」に関連する文字列情報として「住所」および「電話番号」がデータベース(住所録管理ファイル)から読み出されて候補表示される(図5(C)参照)。この状態において、次候補キーが操作されると、ステップA8でそのことが検出されてステップA6に戻り、当該データベースを候補文字列によって再度検索し、この候補文字列に関連する次の項目の文字列情報として「会社名」および「所属部署名」が変換候補として表示される(ステップA6、A7)。このように次候補キーが操作される毎に、次の項目データが候補表示される。ここで、実行キーの操作によって候補の確定が指示されると(ステップA8)、変換確定処理が行われ、データベースあるいはリモートデータベースから読み出された文字列情報がテキストメモリ2-2に確定文字列として格納される(ステップA9)。

【0012】図6はリモート・アクセスの場合の表示例を示し、(A)はかな文字列として「かいぎしつ」を入力した状態を示し、また(B)は変換キーの操作によって入力文字列がかな漢字変換された状態を示している。これによって得られた候補文字列「会議室」に対してその属性を示す別の情報「施設」を文字列属性として入力指定すると、候補文字列「会議室」に基づいて文字列属性テーブル2-3がアクセスされ、リモートデータベースが検索対象として選択される(ステップA3~A5)。そして、このリモートデータベースの内容を候補

文字列に基づいて検索し、その検索結果が変換候補として表示される(ステップA6、A7)。図6(C)はこの場合の表示例を示し、リモート・アクセスにより現時点で会議室の予約状況が1画面分候補表示される。ここで、次候補キーが操作されると(ステップA8)、次の1画面分の予約状況が候補表示される。そして、実行キーが操作されると、会議室の予約状況を確定文字列としてテキストメモリ2-2に取り込むことができる。

【0013】以上のように、この文書処理装置においては、通常のかな漢字変換時において、かな漢字変換された漢字混りの候補文字列に対してその属性を示す別の情報を文字列属性として入力指定するだけで、当該文字列属性に対応するデータベースをアクセスして候補文字列をそれに関連する別の文字列情報に変換して候補表示するようにしたから、かな漢字変換時にデータベースの内容をテキストメモリ2-2に取り込むことができる。この場合、常駐されているデータベースに限らず、リモート・アクセスによってサーバコンピュータ9側で記憶管理されているリモートデータベースの内容も容易に取り込むことができる。

【0014】なお、上述の例はデータベースの内容を参照することによって得られた文字列情報をテキストメモリ2-2に格納して作成文書中に挿入するようにしたが、データベースの内容を参考のために単に表示するようにしてもよい。また、データベースの内容を参照することによって得られた文字列情報を修正して作成文書中に挿入したり、元のデータベースに格納するようにしてもよい。

【0015】(第2実施形態)以下、図7～図9を参照してこの発明の第2実施形態を説明する。なお、この第2実施形態における文書処理装置もその基本的な構成要素は図1と同様に構成されているため、そのブロック図は図示省略し、以下、図1を兼用して第2実施形態を説明するものとする。図7(A)はRAM2内の専門用語テーブル2-7を示した図である。この専門用語テーブル2-7は専門用語に対応して専門用語辞書名を記憶する構成で、CPU1はかな漢字変換によって得られた漢字混りの候補文字列の中に専門用語テーブル2-7内に定義されている専門用語が含まれていることを検出すると、それに対応する専門用語辞書を検索対象として選択し、当該辞書を用いてかな漢字変換を再度行う。図7

(B)は専門辞書メモリ2-8を示し、特許用語辞書、建築用語辞書等を有している。この専門用語辞書は記憶媒体4からRAM2にロードしたものの他、必要に応じて通信機能によりサーバコンピュータ9側の専門用語辞書をRAM2にロードしたものである。

【0016】次に、この第2実施形態におけるかな漢字変換時の動作を図8に示すフローチャートにしたがって説明する。まず、かな文字列が入力されて変換が指示されると、CPU1は入力文字列を変換辞書メモリ2-1

やRAM2内に予めダウンロードされている専門辞書メモリ2-8を参照することによって漢字混りの候補文字列に変換すると共に(ステップB1)、この候補文字列をテキスト画面に表示させる(ステップB2)。そして、CPU1はこの候補文字列の中に専門用語が含まれているかを専門用語テーブル2-7内の用語を参照することにより判別し(ステップB3)、その結果、専門用語が含まれていない場合には(ステップB4でNO)、次候補キーが操作されたか、実行キーの操作によって候補文字列の確定が指示されたかを調べ、次候補キーが操作された場合にはステップB1に戻るが、確定が指示された場合にはステップB13に進み、変換確定処理が実行されて候補文字列がテキストメモリ2-2に確定文字列として格納される。一方、専門用語が含まれていることがステップB4で検出されると、候補文字列から専門用語を抽出する(ステップB5)。そして、抽出した専門用語はRAM2内にダウンロード済みかを調べ(ステップB6)、RAM2内に存在していなければ、通信制御部8を介してサーバコンピュータ9に専門用語辞書の転送要求を送信し、これに回答してサーバコンピュータ9側から伝送されて来た専門用語辞書を新たにRAM2へダウンロードしておく(ステップB8)。

【0017】ここで、実行キーが操作されて候補文字列の確定が指示されると(ステップB9)、変換確定処理に移り(ステップB13)、候補文字列はテキストメモリ2-2に格納されるが、次候補キーが操作されると、ステップB10に進み、新たにダウンロードされた専門用語辞書を検索対象として選択し、入力文字列をこの専門用語辞書に基づいて再変換する。これによって得られた変換結果は次候補として表示される(ステップB11)。図9はこの場合の表示例を示したもので、(A)はかな文字列を入力した状態を示し、(B)は変換指示された状態を示している。この場合、候補文字列「特許軽装」には専門用語が含まれているので、この専門用語に対応する特許用語辞書がRAM2に存在していなければ、それを新たにダウンロードしておく。ここで、次候補キーが操作されると、特許用語辞書に基づいて入力かな文字列が再変換されるため、図9(C)に示すように次候補として「特許係争」に変換されて候補表示される。なお、次候補も所望する文字列でない場合に、更に次候補キーを操作すると、ステップB12でそのことが検出されてステップB10に戻り、新たにロードされた専門用語辞書に基づいて再変換が行われる。ここで、確定指示が有ると、ステップB13に進み、確定処理が行われる。

【0018】以上のように、この文書処理装置においては、通常のかな漢字変換時において、かな漢字変換された候補文字列に専門用語テーブル2-7に定義されている専門用語が含まれている場合には、候補文字列の中から専門用語を抽出しておき、次候補キーが操作された際

に、抽出されている専門用語に対応する辞書名を専門用語テーブル2-7から読み出してそれに対応する専門用語辞書を検索対象として選択し、この専門用語辞書に基づいて入力文字列を再変換して候補表示するようにしたから、どのような分野の専門用語であっても通常の操作手順にしたがって入力文字列を所望する専門用語に効率良く変換することができる。この場合、常駐されている専門用語辞書に限らず、必要に応じてサーバコンピュータ9側から専門用語辞書をダウンロードすることができ、以降は新たにダウンロードされた専門用語辞書に基づいてかな漢字変換することが可能となる。

【0019】なお、上述の例はかな漢字変換の場合を列に挙げたが、ローマ字/漢字変換あるいは日本語から英語、仏語等のように他の言語への変換であってもよい。

【0020】

【発明の効果】請求項1記載の発明によれば、入力文字列を変換辞書メモリによりそれに対応する候補文字列に変換する通常の文字列変換時において、この候補文字列に基づいて所定のデータベースをアクセスすることで、この候補文字列に関連する別の文字列情報を容易に取得することができる。また、請求項3記載の発明によれば、どのような分野の専門用語であっても通常の操作手順にしたがって入力文字列を所望する専門用語に効率良く変換することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】文書処理装置の全体構成を示したブロック図。

【図2】RAM2の主要構成を示した図。

【図3】文字列属性テーブル2-3の内容を示した図。

【図4】かな漢字変換時の動作を示したフローチャート。

【図5】かな漢字変換時において、(A)はかな文字列\*

\*を入力した場合、(B)は変換を指示した場合、(C)は文字列属性として「氏名」を入力指定した場合、

(D)は文字列属性を入力指定したのち候補変換を指示した場合の表示状態図。

【図6】かな漢字変換時において、(A)はかな文字列を入力した場合の表示状態図、(B)は変換を指示した場合の表示状態図、(C)は文字列属性として「施設」を入力指定することによりリモートデータベースの内容が表示された状態を示した図。

10 【図7】この発明の第2実施形態において、(A)は専門用語テーブル2-7の内容を示した図。(B)は専門辞書メモリ2-8の内容を示した図。

【図8】第2実施形態におけるかな漢字変換時の動作を示した図。

【図9】第2実施形態において、(A)～(C)は入力操作に応じた表示状態図。

【符号の説明】

1 CPU

2 RAM

20 2-1 変換辞書メモリ

2-3 文字列属性テーブル

2-4 データベース(1)

2-5 データベース(N)

2-7 専門用語テーブル

2-8 専門辞書メモリ

3 記憶装置

4 記憶媒体

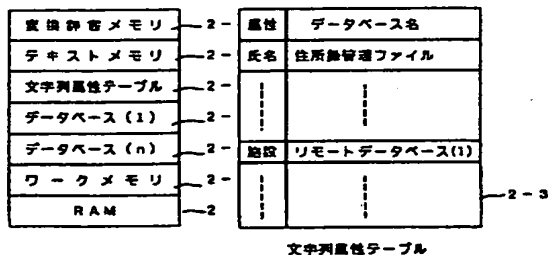
5 入力装置

6 表示装置

30 8 通信制御部

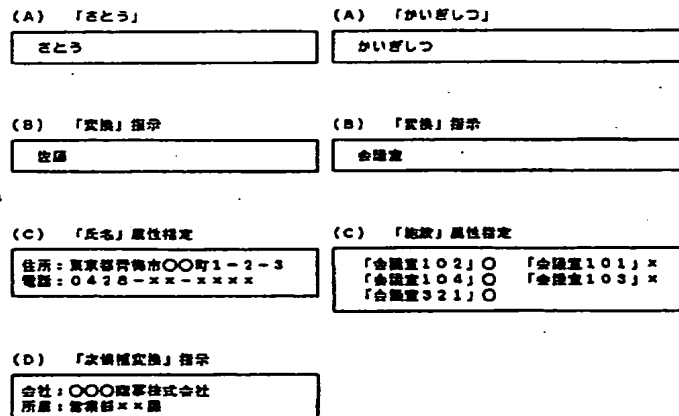
9 サーバコンピュータ

【図2】



【図3】

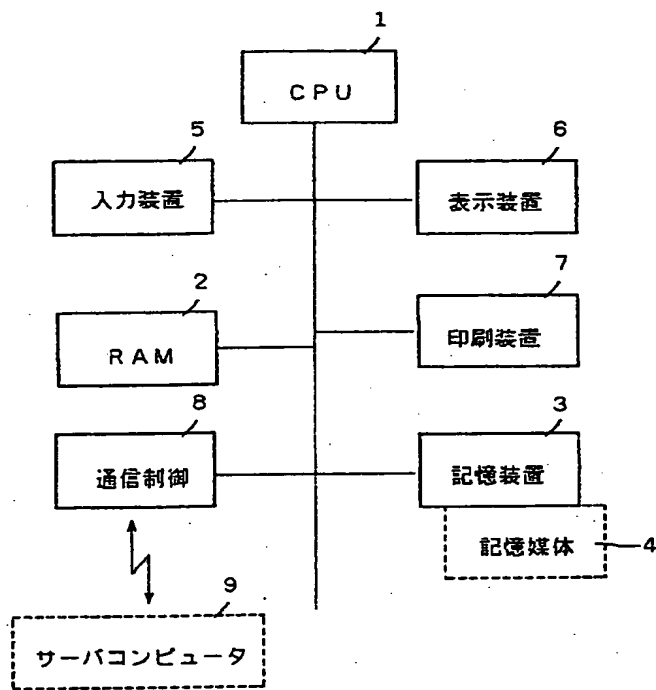
【図5】



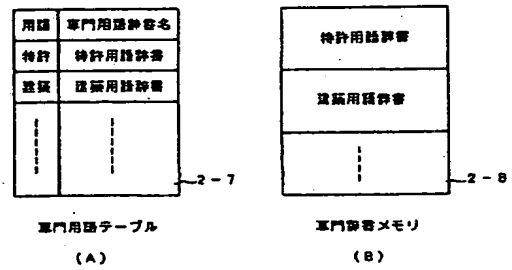
【図6】



【図1】



【図7】



【図9】

(A) 「とっさふけいそう」

とっさふけいそう

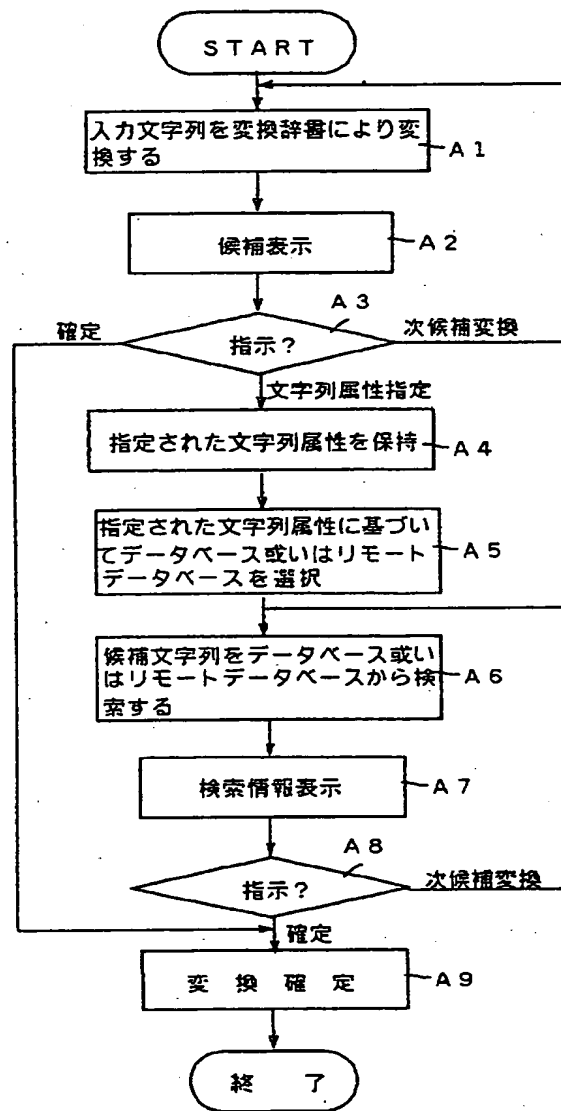
(B) 「実業」番号

特許証書

(C) 「本機種実機」番号

特許証書

【図4】



【図8】

